

地球・惑星科学トッフセミナー

5月17日(日) 会場：幕張メッセ 国際会議場 201A

地球惑星科学分野における最新の成果を招待講演者に分かりやすく紹介していただきます。

今年のテーマは「太陽系探査」です。

コンピーナー：原 辰彦(建築研究所 国際地震工学センター) 山田 耕(神戸大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻)

9:45-10:20 はやぶさが開く小天体の科学

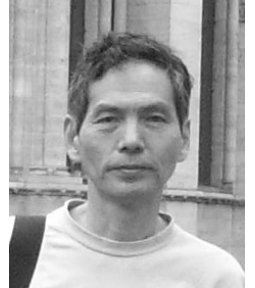
講師：藤原 顕 元独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学本部教授

[講師紹介]

元宇宙航空研究開発機構宇宙科学本部教授。1972年京都大学大学院博士課程終了。京都大学助手を経て1992年より宇宙科学研究所(宇宙航空研究開発機構の前身)で、「はやぶさ」の科学主任をつとめる。助教授、教授をへて2006年退職。理学博士。

～講師からのメッセージ～

わたしたちの太陽系にはおびただしい数の小さな天体が存在しており、現在もどんどん発見されつつあります。その中でも小惑星はもっともわれわれの近くにまでやってくる存在であるとともに、太陽系の化石といわれるように、太陽系の過去をひもとく鍵といわれているものですが、実は、その実態はわからないことだらけです。ここではこのような背景もまじえながら、「はやぶさ」が探査したたった500m程度の小さな天体の世界を紹介します。



10:20-10:55 月探査機「かぐや」の見た月世界

講師：春山 純一 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 助教
公立大学法人 会津大学 大学院コンピュータ理工学研究科 特任准教授 (兼務)

[講師紹介]

県立福島高校卒、京都大学理学部卒、博士号(理学)取得により、京都大学理学研究科退学。専門は月惑星科学。SELENE(かぐや)搭載地形カメラの主責任研究者。

～講師からのメッセージ～

一昨年9月に種子島宇宙センターから、H2Aロケットによって打ち上げられた月探査衛星 SELENE(セレーネ：愛称「かぐや」)。その重量は約2トン。15におよぶ観測機器を搭載し、月の起源と進化の謎を解明し、将来の月の利用性の可能性を調査する目的で月に送り込まれました。アポロ計画以来の大型月探査です。すでに、初めの観測予定期間1年を越えて、更に観測を続けています。皆さんは、これまで SELENE は 40 万 km の彼方から、地上にどんなデータを送ってきているかを、ご存じですか？今回は、SELENE に積まれた科学観測用カメラから得られたデータを元に作成された月面の詳細な 3 次元ムービーを中心に、学会講演会でもなかなか見せる機会の無いデータを、是非、みなさんに紹介してみたいと思います。



10:55-11:30 日本の惑星探査：過去、現在、未来

講師：佐藤 毅彦 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部・宇宙プラズマ研究系・教授

[講師紹介]

博士号：1992年3月、東京理科大学大学院・理学研究科より博士(理学)を授与
その後：1992年4月～93年9月、ハワイ大学天文学研究所、1993年10月～97年3月、NASAゴダード宇宙センター、東京理科大学計算科学フロンティア研究センター・講師、熊本大学教育学部・助教授を経て、2006年12月から JAXA 宇宙科学研究本部・宇宙プラズマ研究系・教授
お仕事：PLANET-C 金星探査(2ミクロン・カメラ責任者)、次期火星探査(WG 主査)、木星オーロラ研究、天文教育

～講師からのメッセージ～

惑星間空間へ飛び出して惑星を直接に探査、などといえいかにも特別な人たちによる特殊な仕事のように聞こえます。しかし実は、素朴に「真理を知りたい」「こんな技術チャレンジをしたい」と思う人たちが、知恵と技を出し合って(出ない時も、あります)地道で泥臭い作業を続け、惑星探査ミッションを作っています。探査の上辺の紹介だけでなく、その裏で働く人たちの姿を伝えることで、より親しみを感じてもらえたり、「自分もそこに加わってみたい」と思ってもらえる、そんなセミナーとしたいと思います。

